

と よ た ち

美肌通信 11月号



VOL. 148



ももか

# November



今月号のとみたち美肌通信の表紙は、

おもしろな ぶどうプリンゴ、キコなど、

秋の食材がたくさんで、うまさ"さんとネコさん、

キツネさんが、秋の日のパーティーを楽しそうに  
している絵です！

絵本を読む事や絵を描く事が趣味で、

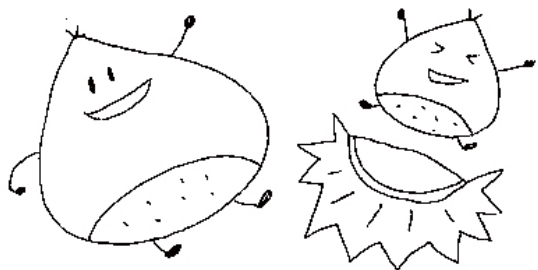
お料理、粘土あそびなどが好きな女の子が、

描いてくれました♡

すてきな表紙をありがとうございます！

院長はじめ スタッフ一同

いつも感謝いたします



私共、豊郷たちかわ皮膚科クリニックは現在13年目に入っております。13年が長いか短いかは種々雑多な見解があるかと思いますが、今日まで存続しているのはひとえに来院して下さる患者様いるお陰である事は言うまでもなく、深謝致さねばなりません。

当クリニックに限らず皮膚科に共通する特徴があります。夏と冬に患者数が増加し春と秋には減少する傾向です。一日来院患者数が100人のクリニックでもまた200人来院する施設であっても、皮膚科の特徴は先の様です。私が新人医局員時代に教授が「柿が赤くなる頃になると皮膚科医の顔は青くなる」とよく言っておられました。当クリニックに一日あたり何人の患者様が来院されるかはさておき、当職員の数人は同規模の他院皮膚科と比べ、明らかに少ないことは院長として理解しています。事務員1人、看護師3人(内1人はパート)、看護補助員兼カウンセラー1人、院長1人の総勢6人で毎日の診療にあたっています。この少ない職員数ではありますが、私の親愛なる彼等の運きや各自の仕事における能力及心情熱は、クリニック内での彼等の実際

の行動にその解答を見い出すことが出来ると私は考えております。例えば"指示や命令を出さず"とも、自ら何をすべきか 何が必要かを、診療が遅滞することなく次々にやらなければいけない事を遂行していると思っておりますが、患者様にはどう映っているでしょうか。

以上の様に少ない人数で診療を行っているため、職員同士の助け合いが大変重要になってきます。例えば当クリニックでは、初診の患者様の土壌、最初の間診を受け付けて行う場合があります。詳細な問診は診察室で看護師等が担当しますが、スムーズな診療の一環として方向性を示しておくための簡単な問診を受付けて行うので、患者様各位におかれては引き続き御協力を頂きたい存じます。

また他院とは異なるもう一つの特徴があります。院長はもとより全職員が患者様の特徴を理解するべく努力しているという事です。一般的には受付での職員と患者様とのやりとりは、診察室では不月な事象が多いのが通例と考えます。病気と患者様の特徴を合わせて全人的に拝診していきたいと考えている由、当クリニックでは情報交換を行っています。これは正しい診断や治療を行える様にするためのものと、患者様各位には御理解して頂ければ幸甚です。今後共、全職員力を合わせて診療をして参りますので、何卒宜しくお願ひ申し上げます。 院長、持